

レイトレーシング (光線追跡) ともつれた光の生成 10.0 点

答えとその解答例

Part A. 等方的な誘電体における光の伝搬 (1.0 点)

A.1 0.4 点

答え :

$$\frac{1}{\sqrt{\mu_0 \epsilon}}$$

解答例 :

$\vec{k} \times \vec{E} = \omega \vec{B} = \omega \mu_0 \vec{H}$, $\vec{k} \times \vec{H} = -\omega \vec{D}$, より, $\vec{k} \times (\vec{k} \times \vec{E}) = -\omega^2 \mu_0 \vec{D}$ を得る。与えられた等式

$$\vec{A} \times (\vec{B} \times \vec{C}) = \vec{B} (\vec{A} \cdot \vec{C}) - \vec{C} (\vec{A} \cdot \vec{B})$$

より, $\vec{k} \times (\vec{k} \times \vec{E}) = \vec{k} (\vec{k} \cdot \vec{E}) - k^2 \vec{E}$ を得る。

$\vec{D} \cdot \vec{k} = 0$, $\vec{D} = \epsilon \vec{E}$, より $\vec{k} \times (\vec{k} \times \vec{E}) = -k^2 \vec{E}$, となり,

$\vec{k} \times (\vec{k} \times \vec{E}) = -\omega^2 \mu_0 \vec{D}$ は, $-k^2 \vec{E} = -\omega^2 \mu_0 \epsilon \vec{E}$, となる。

ここで位相速度は $\frac{d(\vec{k} \cdot \vec{r} - \omega t)}{dt}$ より求められるので, $\vec{v}_p = \frac{d\vec{r}}{dt} = \frac{\omega}{k} \hat{k}$, となる。明らかに $\frac{\omega}{k} = \frac{1}{\sqrt{\mu_0 \epsilon}}$ である。よって $v_p = \frac{1}{\sqrt{\mu_0 \epsilon}}$ である。

A.2 0.2 点

答え :

$$c\sqrt{\mu_0 \epsilon}$$

解答例 :

$$v_p = \frac{1}{\sqrt{\mu_0 \epsilon}} = \frac{c}{n}, \text{ より } n = c\sqrt{\mu_0 \epsilon}.$$

A.3 0.4 点

答え：

$$\hat{k}, \quad v_r = v_p = \frac{1}{\sqrt{\mu_0 \epsilon}}$$

解答例：

光の速さを求めるために、まず、エネルギーの流れの方向はポインティングベクトル $\vec{S} = \vec{E} \times \vec{H}$ で与えられ、これは \vec{k} の方向と一致している。

電磁エネルギー密度は、 $u_e = \frac{1}{2} \vec{E} \cdot \vec{D}$ 、および $u_m = \frac{1}{2} \vec{B} \cdot \vec{H}$ 、により

$u = u_e + u_m$ である。

さて、 $\vec{k} \times \vec{H} = -\omega \vec{D}$ から、 $\vec{D} = -\frac{1}{v_p} \hat{k} \times \vec{H}$ を得る。

したがって、 $u_e = -\frac{1}{2v_p} \vec{E} \cdot \hat{k} \times \vec{H} = \frac{1}{2v_p} \hat{k} \cdot \vec{E} \times \vec{H}$ 。

また、同様に $\vec{k} \times \vec{E} = \omega \vec{B}$ 、から $u_m = \frac{1}{2v_p} \vec{B} \cdot \hat{k} \times \vec{E} = \frac{1}{2v_p} \hat{k} \cdot \vec{E} \times \vec{H}$ を得る。

故に $u = \frac{1}{v_p} \hat{k} \cdot \vec{E} \times \vec{B}$ となる。

以上より、 $v_r = \frac{S}{u} = v_p = \frac{1}{\sqrt{\mu_0 \epsilon}}$ を得る。

Part B. 一軸性誘電体媒体中の光の伝搬 (4.8 点)

B.1 1.5 点

答え：

$$n = n_0, \quad \hat{B} = \pm \hat{k} \times \hat{y} = \pm(-\cos \theta, 0, \sin \theta), \quad \hat{D} = \pm \hat{y}$$

または、

$$n = \frac{n_0 n_e}{\sqrt{n_0^2 \sin^2 \theta + n_e^2 \cos^2 \theta}}, \quad \hat{B} = \pm \hat{y}, \quad \hat{D} = \pm \hat{y} \times \hat{k} = \pm(\cos \theta, 0, -\sin \theta)。$$

$\theta = 0$ に対して、屈折率に1つだけ許される値がある。

解答例：

$\vec{k} \times \vec{E} = \omega \vec{B} = \omega \mu_0 \vec{H}$, $\vec{k} \times \vec{H} = -\omega \vec{D}$, より、

$\vec{k} \times (\vec{k} \times \vec{E}) = -\omega^2 \mu_0 \vec{D}$, を得る。各成分を書きだし, $\omega = \frac{c}{n}k$ を用いると

$$\begin{aligned} -\cos^2 \theta E_x + \cos \theta \sin \theta E_z &= -\frac{n_0^2}{n^2} E_x \\ -\cos^2 \theta E_y - \sin^2 \theta E_y &= -\frac{n_0^2}{n^2} E_y \\ -\sin^2 \theta E_z + \cos \theta \sin \theta E_x &= -\frac{n_e^2}{n^2} E_z \end{aligned}$$

少し整理すると

$$\begin{aligned} \left(1 - \frac{n_0^2}{n^2}\right) E_y &= 0 \\ \left(\frac{n_0^2}{n^2} - \cos^2 \theta\right) E_x + \cos \theta \sin \theta E_z &= 0 \\ \cos \theta \sin \theta E_x + \left(\frac{n_e^2}{n^2} - \sin^2 \theta\right) E_z &= 0 \end{aligned}$$

行列式を0として

$$\left(1 - \frac{n_0^2}{n^2}\right) \left[\left(\frac{n_0^2}{n^2} - \cos^2 \theta\right) \left(\frac{n_e^2}{n^2} - \sin^2 \theta\right) - \cos^2 \theta \sin^2 \theta \right] = 0$$

となる。これより, 明らかに一般の θ に対して, n に対する解が2つ存在する。

(1) $n = n_0$

この場合は, $E_x = E_z = 0$ である。 \vec{E} は y 軸に平行である。 $\vec{k} \times \vec{E} = \omega \vec{B}$ および $\vec{k} \times (\mu_0 \vec{B}) = -\omega \vec{D}$ より \vec{B} と \vec{D} の方向は $\hat{B} = \pm \hat{k} \times \hat{y} = \pm(-\cos \theta, 0, \sin \theta)$ および $\hat{D} = -\hat{k} \times \hat{B} = \pm(0, 1, 0) = \pm \hat{y}$ となる。

(2)

$$\left(\frac{n_0^2}{n^2} - \cos^2 \theta\right) \left(\frac{n_e^2}{n^2} - \sin^2 \theta\right) - \cos^2 \theta \sin^2 \theta = 0$$

これより

$$n = \frac{n_0 n_e}{\sqrt{n_0^2 \sin^2 \theta + n_e^2 \cos^2 \theta}}$$

が得られる。明らかに, $\theta = 0$, $n = n_0$ では屈折率は1つのみである。これは光軸の方向である。

この場合, $E_y = 0$ で, 故に \vec{E} は xz 面内にある。

従って $\vec{k} \times \vec{E} = \omega \vec{B}$ は $\hat{B} = \pm \hat{y}$ を意味する。

また、 $\vec{k} \times (\mu_0 \vec{B}) = -\omega \vec{D}$ は $\hat{D} = \pm \hat{y} \times \hat{k}$ を意味する。

B.2 0.8 点

答え：

(1) $n = n_0$ のとき、 $\hat{E} = \pm \hat{y}$ で正常光線である。

$$\tan \alpha = 0。$$

(2)

$$n = \frac{n_0 n_e}{\sqrt{n_0^2 \sin^2 \theta + n_e^2 \cos^2 \theta}}$$

のとき、

$$\hat{E} = \pm \frac{1}{\sqrt{n_0^4 \sin^2 \theta + n_e^4 \cos^2 \theta}} (-n_e^2 \cos \theta, 0, n_0^2 \sin \theta)$$

で異常光線である。

$$\tan \alpha = \frac{(n_0^2 - n_e^2) \tan \theta}{n_e^2 + n_0^2 \tan^2 \theta}$$

解答例：

(1) $n = n_0$ に対しては \hat{E} と \hat{D} は y 軸に対して平行である。これは正常光線であり、 $\tan \alpha = 0$ である。

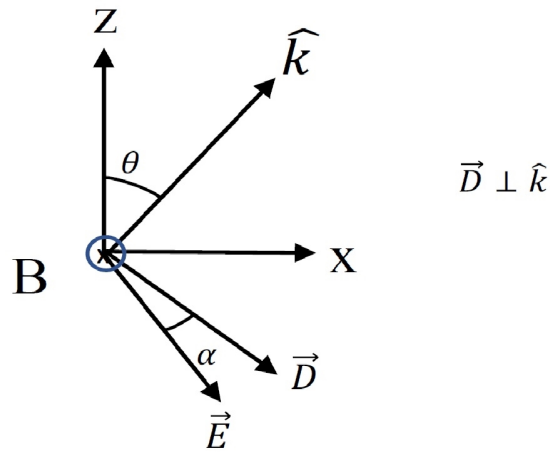
(2)

$$n = \frac{n_0 n_e}{\sqrt{n_0^2 \sin^2 \theta + n_e^2 \cos^2 \theta}}$$

に対して $n \neq n_0$ で、 $E_y = 0$ である。

n を E_x と E_z の式に代入すれば、

$$\frac{n_0^2}{n_e^2} \sin \theta E_x + \cos \theta E_z = 0$$



電場は xz 面にあつて

$$\hat{E} = \pm \frac{1}{\sqrt{n_0^4 \sin^2 \theta + n_e^4 \cos^2 \theta}} (-n_e^2 \cos \theta, 0, n_0^2 \sin \theta)$$

(\vec{B} は $\mp y$ 方向を向いている。) 故に \vec{E} は \vec{k} に垂直ではなく、 \vec{D} と \vec{k} とともに xz 面内にある。これは異常光線である。

$\vec{k} \times \vec{H} = -\omega \vec{D}$ は \hat{k} に垂直である。故に $\hat{D} = \pm(-\cos \theta, 0, \sin \theta)$ 。 $\vec{B} = \hat{y}$ として与えられた θ に対する \vec{E} と \vec{D} の相対方向は $n_e < n_0$ のときについて図のように示される。

\vec{E} と \vec{D} のそれぞれの x 軸に対する相対角度を θ_1 と θ_2 とする。すると $\tan \theta_2 = -\tan \theta$ および $\tan \theta_1 = -\frac{n_0^2}{n_e^2} \tan \theta$ である。故に

$$\tan \alpha = \tan(\theta_2 - \theta_1) = \frac{\tan \theta_2 - \tan \theta_1}{1 + \tan \theta_1 \tan \theta_2} = \frac{(n_0^2 - n_e^2) \tan \theta}{n_e^2 + n_0^2 \tan^2 \theta}$$

\vec{E} と \vec{D} の相対的な方向が逆転した $\tan \alpha < 0$ をのぞいて $n_e > n_0$ のばあいも同じ結果が保たれる。

B.3 0.6 点

答え：

$n = n_0$ のとき、 $\hat{E} = \pm \hat{y}$ で正常光線である。

$$n = \frac{n_0 n_e}{\sqrt{n_0^2 \sin^2 \theta + n_e^2 \cos^2 \theta}} \text{ のとき,}$$

$$\hat{E} = \pm \frac{1}{\sqrt{n_0^4 \sin^2 \theta + n_e^4 \cos^2 \theta}} \frac{-n_e^2 \cos \theta \hat{k} + (n_0^2 \sin^2 \theta - n_e^2 \cos^2 \theta) \hat{z}}{\sin \theta}$$

で異常光線である。

解答例：

この問題においては軸対称性があり、 z 軸と \hat{k} との平面内で $\vec{k} = k_z \hat{z} + k_\perp \hat{k}_\perp$ および $\vec{E} = E_z \hat{z} + E_\perp \hat{k}_\perp$ と書くことができる。ここで \hat{k}_\perp は \hat{z} に垂直方向を表している。すなわち $k_z = k \cos \theta$, $k_\perp = k \sin \theta$, $E_z = E \cos \theta$, $E_\perp = E \sin \theta$ である。これは

$$\vec{k} \times (\vec{k} \times \vec{E}) = -\omega^2 \mu_0 \vec{D}$$

の成分を書き下せば E_x を E_\perp で置き換えれば同じ関係式を得る。ゆえにすべての解は \hat{x} を \hat{k}_\perp で置き換えれば同じである。 $\hat{k}_\perp \sin \theta = \hat{k} - \cos \theta \hat{z}$ なので

$$n = \frac{n_0 n_e}{\sqrt{n_0^2 \sin^2 \theta + n_e^2 \cos^2 \theta}}$$

のとき答えの結果を得る。

B.4 0.8 点

答え：

$$(1) \quad n = n_0, \quad \tan \alpha_r = 0, \quad v_r = \frac{c}{n_0}, \quad \hat{S} = (\sin \theta, 0, \cos \theta)$$

(2)

$$n = \frac{n_0 n_e}{\sqrt{n_0^2 \sin^2 \theta + n_e^2 \cos^2 \theta}}$$

$$\tan \alpha_r = \frac{(n_0^2 - n_e^2) \tan \theta}{n_e^2 + n_0^2 \tan^2 \theta}$$

$$v_r = \frac{c}{n_0 n_e} \sqrt{\frac{n_0^4 \sin^2 \theta + n_e^4 \cos^2 \theta}{n_0^2 \sin^2 \theta + n_e^2 \cos^2 \theta}}$$

$$\hat{S} = \frac{1}{\sqrt{n_0^4 \sin^2 \theta + n_e^4 \cos^2 \theta}} (n_0^2 \sin \theta, 0, n_e^2 \cos \theta)$$

$$(3) n_s = \sqrt{(\hat{S} \cdot \hat{x})^2 n_e^2 + (\hat{S} \cdot \hat{z})^2 n_0^2}$$

解答例：

エネルギー流の方向はポインティングベクトル $\vec{S} = \vec{E} \times \vec{H}$ である。電磁波のエネルギー密度を u ，速さを v_r とする。すなわち $v_r = \frac{S}{u}$ である。ここに

$u = u_e + u_m$ ， $u_e = \frac{1}{2} \vec{E} \cdot \vec{D}$ ， $u_m = \frac{1}{2} \vec{B} \cdot \vec{H}$ である。以下，2つの場合がある。

(1) $n = n_0$ の場合， $\vec{E} = (0, E, 0)$ ， $\vec{D} = \epsilon \vec{E}$ ， $\vec{k} \times \vec{E} = \omega \mu_0 \vec{H}$ ， $\vec{k} \times \vec{H} = -\omega \vec{D}$ 。

\hat{k} ， \vec{E} ， \vec{H} は互いに垂直である。故に \vec{S} は \hat{k} に平行で $\hat{S} = (\sin \theta, 0, \cos \theta)$ ， $\tan \alpha_r = 0$ である。

$\vec{k} \times \vec{H} = -\omega \vec{D}$ より， $\vec{D} = -\frac{1}{v_p} \hat{k} \times \vec{H}$ を得る。故に $u_e = -\frac{1}{2v_p} \vec{E} \cdot \hat{k} \times \vec{H} = \frac{1}{2v_p} \hat{k} \cdot \vec{E} \times \vec{H}$ 。同様に $u_m = \frac{1}{2v_p} \vec{H} \cdot \hat{k} \times \vec{E} = \frac{1}{2v_p} \hat{k} \cdot \vec{E} \times \vec{H}$ 。故に $\frac{1}{v_p} \hat{k} \cdot \vec{E} \times \vec{H}$ 。

故に $\hat{S} = \hat{k}$ ，また $u = \frac{S}{v_p}$ である。

よって $v_r = \frac{S}{u} = v_p = \frac{\omega}{k} = \frac{c}{n_0}$ 。

(2) $n = \frac{n_0 n_e}{\sqrt{n_0^2 \sin^2 \theta + n_e^2 \cos^2 \theta}}$ の場合， $\vec{B} = (0, B, 0)$ (y 方向が負の場合も同様) ととることができ， \vec{D} ， \vec{E} ， \hat{k} は xz 面にあり， \vec{D} は \hat{k} に垂直である。

故に $\vec{S} = \frac{1}{\mu_0} \vec{E} \times \vec{B}$ と \hat{k} の間の角度は \vec{D} と \vec{E} の間の角と等しい： $\alpha = \alpha_r$ 。

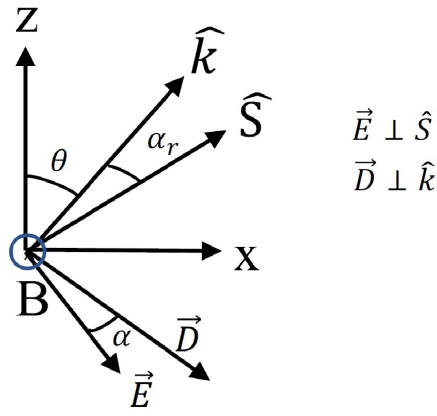
これは $n_e < n_0$ の場合に図のように示される。($n_e > n_0$ に対しては α ， α_r は両者負で \vec{E} ， \vec{D} の相対方向を逆転させ \hat{S} ， \hat{k} を入れ替える。)

以上より， $\tan \alpha_r = \tan \alpha = \frac{(n_0^2 - n_e^2) \tan \theta}{n_e^2 + n_0^2 \tan^2 \theta}$ 。

また， $u = \frac{1}{v_p} \hat{k} \cdot \vec{E} \times \vec{H} = \frac{1}{v_p} |\vec{E} \times \vec{H}| \cos \alpha$ 故に $v_r = \frac{S}{u} = \frac{v_p}{\cos \alpha}$ を得る。

位相速度 v_p と光速との関係は $v_p = v_r \cos \alpha$ である。

$\tan \alpha$ より $\cos \alpha = \frac{n_0^2 \sin^2 \theta + n_e^2 \cos^2 \theta}{\sqrt{n_0^4 \sin^2 \theta + n_e^4 \cos^2 \theta}}$ である。



故に

$$v_r = \frac{c}{n \cos \alpha} = \frac{c}{n_0 n_e} \sqrt{\frac{n_0^4 \sin^2 \theta + n_e^4 \cos^2 \theta}{n_0^2 \sin^2 \theta + n_e^2 \cos^2 \theta}}$$

また, $\hat{S} = (\sin(\theta + \alpha), \cos(\theta + \alpha))$ より,

$$\begin{aligned} \sin \alpha &= \frac{(n_0^2 - n_e^2) \sin \theta \cos \theta}{\sqrt{n_0^4 \sin^2 \theta + n_e^4 \cos^2 \theta}} \\ \cos \alpha &= \frac{n_e^2 \cos^2 \theta + n_0^2 \sin^2 \theta}{\sqrt{n_e^4 \cos^2 \theta + n_0^4 \sin^2 \theta}} \end{aligned}$$

また,

$$\hat{S} = \frac{1}{\sqrt{n_0^4 \sin^2 \theta + n_e^4 \cos^2 \theta}} (n_0^2 \sin \theta, 0, n_e^2 \cos \theta).$$

(3)

$$n_s^2 = \left(\frac{c}{v_r} \right)^2 = n_0^2 n_e^2 \frac{n_e^2 \cos^2 \theta + n_0^2 \sin^2 \theta}{n_e^4 \cos^2 \theta + n_0^4 \sin^2 \theta} = \frac{n_0^4 \sin^2 \theta n_e^2 + n_e^4 \cos^2 \theta n_0^2}{n_e^4 \cos^2 \theta + n_0^4 \sin^2 \theta}$$

より

$$n_s = (\hat{S} \cdot \hat{x})^2 n_e^2 + (\hat{S} \cdot \hat{z})^2 n_0^2$$

B.5 1.1 点

答え :

$$\begin{aligned} \bar{A} &= P_1(n^2 \sin^2 \theta_1 - P_1) \\ \bar{B} &= -2P_3(n^2 \sin^2 \theta_1 - P_1) \\ \bar{C} &= P_2 n^2 \sin^2 \theta_1 - P_3^2 \end{aligned}$$

$$\phi = 0, \quad \tan \theta_2 = \frac{nn_e \sin \theta_1}{n_0 \sqrt{n_0^2 - n^2 \sin^2 \theta_1}}$$

$$\phi = \pi/2, \quad \tan \theta_2 = \frac{nn_0 \sin \theta_1}{n_e \sqrt{n_e^2 - n^2 \sin^2 \theta_1}}$$

解答例：

A 点と B 点の z 軸に対する距離を d とし、光線が通過する界面の点を原点 O とする。A 点と B 点の座標はそれぞれ $(h_1, 0, d - z)$ 及び $(h_2, 0, z)$ である。 $\overline{AO} \equiv d_1 = \sqrt{h_1^2 + (d - z)^2}$, $\overline{BO} \equiv d_2 = \sqrt{h_2^2 + z^2}$ である。A から B への伝播時間は光線の速さ v_r によって $(d_1 n_{s1} + d_2 n_{s2})/c$ で決まる。ここに n_{si} は媒質 i の光学定数である。これはフェルマーの原理に従えば、 $\Delta \equiv d_1 n_{s1} + d_2 n_{s2}$ で定義される光路長を極小化する必要がある。これより、 $n_{s2}^2 = (\hat{b} \cdot \hat{x}_2)^2 n_e^2 + (\hat{b} \cdot \hat{z}_2)^2 n_0^2$ を得る。但し \hat{b} は \overline{OB} の単位ベクトルである。

等方媒質の光学定数は単純な屈折率であり、 $n_{s1} = n$ である。次の

$$\hat{b} \cdot \hat{x}_2 = \cos(\phi - \theta_2) = \frac{h_2}{d_2} \cos \phi + \frac{z}{d_2} \sin \phi$$

$$\hat{b} \cdot \hat{z}_2 = \cos\left(\frac{\pi}{2} + \phi - \theta_2\right) = \sin(\theta_2 - \phi) = \frac{z}{d_2} \cos \phi - \frac{h_2}{d_2} \sin \phi$$

より次を得る。

$$\Delta = n \sqrt{h_1^2 + (d - z)^2} + \sqrt{(h_2 \cos \phi + z \sin \phi)^2 n_e^2 + (-h_2 \sin \phi + z \cos \phi)^2 n_0^2}$$

極小値は $\frac{d\Delta}{dz} = 0$ により次式が得られる。

$$n \frac{z - d}{\sqrt{h_1^2 + (d - z)^2}} + \frac{h_2 \sin \phi \cos \phi (n_e^2 - n_0^2) + z (n_e^2 \sin^2 \phi + n_0^2 \cos^2 \phi)}{\sqrt{(h_2 \cos \phi + z \sin \phi)^2 n_e^2 + (-h_2 \sin \phi + z \cos \phi)^2 n_0^2}} = 0$$

$\frac{z - d}{\sqrt{h_1^2 + (d - z)^2}} = \sin \theta_1$ であることなどから、

$$n^2 \sin^2 \theta_1 = \frac{(P_3 - P_1 \tan \theta_2)^2}{P_1 \tan^2 \theta_2 - 2P_3 \tan \theta_2 + P_2}$$

を得る。ただし、

$$P_1 = n_0^2 \cos^2 \phi + n_e^2 \sin^2 \phi$$

$$P_2 = n_0^2 \sin^2 \phi + n_e^2 \cos^2 \phi$$

$$P_3 = (n_0^2 - n_e^2) \sin \phi \cos \phi$$

以上から

$$P_1(n^2 \sin^2 \theta_1 - P_1) \tan^2 \theta_2 - 2P_3(n^2 \sin^2 \theta_1 - P_1) \tan \theta_1 + P_2 n^2 \sin^2 \theta_1 - P_3^2 = 0$$

となる。これより

$$\begin{aligned}\bar{A} &= P_1(n^2 \sin^2 \theta_1 - P_1) \\ \bar{B} &= -2P_3(n^2 \sin^2 \theta_1 - P_1) \\ \bar{C} &= P_2 n^2 \sin^2 \theta_1 - P_3^2\end{aligned}$$

$\phi = 0$ に対しては, $P_3 = 0$, $P_1 = n_0^2$, $P_2 = n_e^2$ 。
 $n_0^2(n^2 \sin^2 \theta_1 - n_0^2) \tan^2 \theta_2 + n_e^2 n^2 \sin^2 \theta_1 = 0$ より,

$$\tan \theta_2 = \frac{nn_e \sin \theta_1}{n_0 \sqrt{n_0^2 - n^2 \sin^2 \theta_1}}$$

$\phi = \pi/2$ に対しては, $P_3 = 0$, $P_1 = n_e^2$, $P_2 = n_0^2$ 。
 $n_e^2(n^2 \sin^2 \theta_1 - n_e^2) \tan^2 \theta_2 + n_0^2 n^2 \sin^2 \theta_1 = 0$ より

$$\tan \theta_2 = \frac{nn_0 \sin \theta_1}{n_e \sqrt{n_e^2 - n^2 \sin^2 \theta_1}}$$

Part C. 光のもつれ (エンタングルメント) (4.2 点)

C.1 0.8 点

答え :

- (1) $\omega = \omega_1 \pm \omega_2$, $\vec{k} = \vec{k}_1 \pm \vec{k}_2$
- (2) $\hbar\omega = \hbar\omega_1 \pm \hbar\omega_2$, 光子のエネルギー保存
 $\hbar\vec{k} = \hbar\vec{k}_1 \pm \hbar\vec{k}_2$, 光子の運動量保存
- (3) 光子の分裂 : エネルギー保存に対して $\omega = \omega_1 + \omega_2$,
運動量保存に対して $\vec{k} = \vec{k}_1 + \vec{k}_2$

解答例：

角振動数 ω ，波数ベクトル \vec{k} の光波に対してはその電場は $\vec{A}\cos(\omega t - \vec{k}\cdot\vec{r})$ のように与えられる。これはまた， $\frac{\vec{A}}{2}(e^{i(\omega t - \vec{k}\cdot\vec{r})} + e^{-i(\omega t - \vec{k}\cdot\vec{r})})$ と書き直すことができる。この式を

$$P_i^{NL} = \sum_j \sum_k \chi_{ijk}^{(2)} E_j E_k$$

に代入し，指数の等式を整理すると

$$\begin{aligned} \omega &= \omega_1 + \omega_2, & \vec{k} &= \vec{k}_1 + \vec{k}_2 & \text{または} \\ \omega &= \omega_1 - \omega_2, & \vec{k} &= \vec{k}_1 - \vec{k}_2 \end{aligned}$$

となる。ただし，振動数は正である。この関係は光子のエネルギー $\hbar\omega$ と運動量 $\hbar\vec{k}$ から明らかである。 $\omega = \omega_1 + \omega_2$ ， $\vec{k} = \vec{k}_1 + \vec{k}_2$ は (ω, \vec{k}) の光子が消滅して2つの光子 (ω_1, \vec{k}_1) と (ω_2, \vec{k}_2) に分裂した。一方 $\omega = \omega_1 - \omega_2$ ， $\vec{k} = \vec{k}_1 - \vec{k}_2$ は (ω_1, \vec{k}_1) の光子が消滅して2つの光子 (ω, \vec{k}) と (ω_2, \vec{k}_2) に分裂した。

C.2 0.8点

答え：

$\mathbf{o} \rightarrow \mathbf{o} + \mathbf{o}, \quad \mathbf{e} \rightarrow \mathbf{e} + \mathbf{e}$
--

解答例：

同一直線上で位相の整合条件は

$$\omega = \omega_1 + \omega_2 \quad \frac{n_i(\omega)\omega}{c} = \frac{n_j(\omega_1)\omega_1}{c} + \frac{n_k(\omega_2)\omega_2}{c}$$

である。ここに i, j, k は \mathbf{o} か \mathbf{e} かである。 $\omega_1 \geq \omega_2$ であると仮定すると， ω_1 は $\omega_1 = \omega - \omega_2$ として解くことができ，次を得る。

$$n_i(\omega) - n_j(\omega_1) = \frac{\omega_2}{\omega} \{n_k(\omega_2) - n_j(\omega_1)\}$$

これは，もし， $i = j = k$ で $n_i(\omega) - n_j(\omega_1) \geq 0$ ，かつ $n_k(\omega_2) - n_j(\omega_1) \leq 0$ であれば， $\omega \geq \omega_1 \geq \omega_2$ ，であることから，上記の方程式は満たされないことは明かである。

他の場合に関しては n_o と n_e には関係が無いので，位相の整合条件は満たされている。故に， $\omega = \omega_1 \pm \omega_2$ ， $\vec{k} = \vec{k}_1 \pm \vec{k}_2$ は不可能である。故に $\mathbf{o} \rightarrow \mathbf{o} + \mathbf{o}$ ， $\mathbf{e} \rightarrow \mathbf{e} + \mathbf{e}$ のみ不可能である。

C.3 1.3 点

答え：

(1)

$$M = \frac{K_0\{1 - N_e(\Omega_e, \theta) \cot \theta\} + K_e}{2K_e K_0}$$

$$N = -\frac{N_e}{2M}$$

$$L = -(\Omega - \Omega_e) \left(\frac{1}{u_0} - \frac{1}{u_e} \right) + \frac{N_e^2}{4M}$$

(2) 円錐の軸と z' の間の角度 $\tan^{-1} \left(\frac{N}{K_0} \right)$ は

$$\frac{N}{K_0} = -\frac{2K_e N_e}{K_0\{1 - N_e(\Omega_e, \theta) \cot \theta\} + K_e}$$

(3) 円錐の角度 $\tan^{-1} \left(\frac{\sqrt{L/M}}{K_0} \right)$ は

$$\frac{\sqrt{L/M}}{K_0} = -\frac{\Omega - \Omega_e}{MK_0} \left(\frac{1}{u_0} - \frac{1}{u_e} \right) + \frac{N_e^2}{4M^2 K_0}$$

解答例：

位相の整合性を満たすために角周波数 ω_1 と ω_2 を $\omega_1 = \Omega_e + \nu$ と $\omega_2 = \Omega_0 + \nu'$ として、新たな ν と ν' で展開する。

$\Omega_e + \Omega_0 = \Omega_p$ より $\omega_1 + \omega_2 = \omega$, $\nu = -\nu'$ である。

同じように波数ベクトルに対しても $\vec{k} = \vec{k}_1 + \vec{k}_2$ の条件は $k_z = k = K_p = k_{1z} + k_{2z}$ および $\vec{k}_{2\perp} = -\vec{k}_{1\perp} \equiv \vec{q}_\perp$ のように書くことができる。

通常光線 \mathbf{o} に対しては $k_{2\perp}^2 + k_{2z}^2 = k_2^2$, $k_2 = \frac{n_0(\omega_2)\omega_2}{c}$ である。これより

$k_{2z} = \sqrt{k_2^2 - k_{2\perp}^2} = k_2 - \frac{k_{2\perp}^2}{2k_2}$ となる。 k_2 の ω_2 依存性の ν に対する展開をすると

$$k_2 = \frac{n_0(\omega_2)\omega_2}{c} = \frac{n_0(\Omega_0)\Omega_0}{c} + \frac{dk_2}{d\omega_2}(\omega_2 - \Omega_0) = K_0 - \frac{\nu}{u_0}$$

を得る。ここで u_0 は通常光線の速さである。故に2次までに関して

$$k_{2z} = K_0 - \frac{\nu}{u_0} - \frac{q_{\perp}^2}{2K_0}$$

を得る。同様に異常光線 \mathbf{e} に対しては $k_{1\perp}^2 + k_{1z}^2 = k_1^2$, $k_1 = \frac{n_e(\omega_1, \theta_1)\omega_1}{c}$ である。これより $k_{1z} = \sqrt{k_1^2 - k_{1\perp}^2} = k_1 - \frac{k_{1\perp}^2}{2k_1}$ となる。 k_1 の展開は, k_2 とはその角度依存性に関して異なる。 \vec{k}_1 の球面角を θ_1 と ϕ_1 とする。これより

$$k_1 = \frac{n_e(\omega_1, \theta_1)\omega_1}{c} = \frac{n_e(\Omega_e, \theta)\Omega_e}{c} + \frac{dk_1(\Omega_e, \theta)}{d\Omega_e}(\omega_1 - \Omega_e) + \frac{\Omega_e}{c} \frac{dn_e(\Omega_e, \theta)}{d\theta}(\theta_1 - \theta) + \dots$$

ここに $\frac{n_e(\Omega_e, \theta)\Omega_e}{c} = K_e$, また, $\frac{dk_1(\Omega_e, \theta)}{d\Omega_e}$ は異常光線の速さ u_e に対して $1/u_e$ であり

$$\frac{dk_1(\Omega_e, \theta)}{d\Omega_e} = \frac{n_e(\Omega_e, \theta)}{c} + \frac{\Omega_e}{c} \frac{dn_e(\Omega_e, \theta)}{d\Omega_e}$$

と得られる。さらに,

$$\frac{dn_e(\Omega_e, \theta)}{d\theta} = \frac{n_e n_o (n_e^2 - n_0^2) \sin \theta \cos \theta}{(n_0^2 \sin^2 \theta + n_e^2 \cos^2 \theta)^{3/2}} = n_e(\Omega_e, \theta) N_e(\Omega_e, \theta)$$

であることから

$$N_e(\Omega_e, \theta) = \frac{(n_e^2 - n_0^2) \sin \theta \cos \theta}{n_0^2 \sin^2 \theta + n_e^2 \cos^2 \theta}$$

を得る。 $n_e < n_0$ に対して $N_e(\Omega_e, \theta) < 0$ であることに注意しよう。

$\delta\theta = \theta_1 - \theta$ を求めるために, 任意の \vec{k}_α に対して

$$\hat{k}_\alpha \cdot \widehat{\mathbf{OA}} = \cos \theta_\alpha = \cos \theta \cos \psi_\alpha + \sin \theta \sin \psi_\alpha \cos \phi_\alpha$$

を得る (問題の図2(a)参照)。

$\sin \psi_1 = |\vec{k}_{\perp,1}|/|\vec{k}_1| = q_{\perp}/k_1 \ll 1$ であり, また, $\cos \psi_1 = \sqrt{1 - \sin^2 \psi_1} = 1 - (1/2) \sin^2 \psi_1 + \dots$ の2次までで, k_1 を K_e で置き換え

$$\hat{k}_1 \cdot \widehat{\mathbf{OA}} = \cos \theta_1 = \cos \theta \left(1 - \frac{1}{2} \frac{q_{\perp}^2}{K_e^2} + \dots \right) + \sin \theta \left(\frac{q_{\perp}}{K_e} + \dots \right) \cos \phi_1$$

を得る。

一方, $\cos \theta_1 = \cos \theta + \frac{d \cos \theta}{d \theta}(\theta_1 - \theta) + \dots = \cos \theta - \sin \theta(\theta_1 - \theta) + \dots$ であり, これと $\hat{k}_1 \cdot \widehat{OA}$ の方程式と比べて

$$\theta_1 - \theta = \frac{1}{2} \frac{q_{\perp}^2}{K_e^2} \cot \theta - \frac{q_{\perp}}{K_e} \cos \phi_1 + \dots = \frac{1}{2} \frac{q_{\perp}^2}{K_e^2} \cot \theta + \frac{q_{x'}}{K_e} + \dots$$

以上をすべて合わせて

$$k_{1z} = K_e + \frac{1}{u_e}(\Omega - \Omega_e) + N_e(\Omega_e, \theta)q_{x'} + \frac{1}{2} \frac{q_{\perp}^2}{K_e} [N_e(\Omega_e, \theta) \cot \theta - 1] + \dots$$

となることが分かる。この式を k_{1z} と $K_p = k_{1z} + k_{2z}$ と合わせると

$$(\Omega - \Omega_e) \left(\frac{1}{u_e} - \frac{1}{u_0} \right) + N_e(\Omega_e, \theta)q_{x'} + q_{\perp}^2 \left\{ \frac{K_0 [N_e(\Omega_e, \theta) \cot \theta - 1] - K_e}{2K_e K_0} \right\} = 0$$

を得る。 $n_e < n_0$ より $N_e(\Omega_e, \theta) < 0$ である。これより

$$M \left(q_{x'} - \frac{N_e}{2M} \right)^2 + M q_{y'}^2 = -(\Omega - \Omega_e) \left(\frac{1}{u_0} - \frac{1}{u_e} \right) + \frac{N_e^2}{4M}$$

と書きかえることが出来る。ここに

$$M = -\frac{K_0 [N_e(\Omega_e, \theta) \cot \theta - 1] - K_e}{2K_e K_0} > 0$$

である。

故に $N = -N_e/2M > 0$ ($N_e < 0$), および,

$$L = -(\Omega - \Omega_e) \left(\frac{1}{u_0} - \frac{1}{u_e} \right) + \frac{N_e^2}{4M}$$

である。明らかに \vec{k}_2 で形成される円錐の軸は \vec{q}_{\perp} で特徴づけられる。円錐の軸と z' の間の角度は $\tan^{-1}(N/k_{1z})$ であり, これは

$$N/k_{1z} \approx \frac{N}{K_0} = -\frac{2K_e N_e}{K_0 \{1 - N_e(\Omega_e, \theta) \cot \theta\} + K_e}$$

である。円錐の角度は

$$\sin^{-1} \frac{\sqrt{L/M}}{k_0} \approx \frac{\sqrt{L/M}}{K_0} = -\frac{\Omega - \Omega_e}{M K_0} \left(\frac{1}{u_0} - \frac{1}{u_e} \right) + \frac{N_e^2}{4M^2 K_0}$$

である。

C.4 0.8 点

答え :

$$\begin{aligned}P(\alpha, \beta) &= \frac{1}{2} \sin^2(\alpha + \beta) \\P(\alpha, \beta_{\perp}) &= \frac{1}{2} \cos^2(\alpha + \beta) \\P(\alpha_{\perp}, \beta) &= \frac{1}{2} \cos^2(\alpha + \beta) \\P(\alpha_{\perp}, \beta_{\perp}) &= \frac{1}{2} \sin^2(\alpha + \beta)\end{aligned}$$

解答例 :

a 光子に対して偏光の方向の電場と偏光に垂直の電場をそれぞれ $|\alpha_x\rangle$ と $|\alpha_y\rangle$ で表すことにしよう。ここに α_x および α_y は適当な単位で計った電場の振幅を表すものとする。 \hat{x}' と \hat{y}' 方向の電場 (の状態) は

$$\begin{aligned}|\hat{x}'_a\rangle &= \cos \alpha |\alpha_x\rangle - \sin \alpha |\alpha_y\rangle \\|\hat{y}'_a\rangle &= \sin \alpha |\alpha_x\rangle + \cos \alpha |\alpha_y\rangle\end{aligned}$$

同様に b 光子に対して

$$\begin{aligned}|\hat{x}'_b\rangle &= \cos \beta |\beta_x\rangle - \sin \beta |\beta_y\rangle \\|\hat{y}'_b\rangle &= \sin \beta |\beta_x\rangle + \cos \beta |\beta_y\rangle\end{aligned}$$

である。これらから

$$\begin{aligned}|\hat{x}'_a\rangle |\hat{y}'_b\rangle &= (\cos \alpha |\alpha_x\rangle - \sin \alpha |\alpha_y\rangle)(\sin \beta |\beta_x\rangle + \cos \beta |\beta_y\rangle) \\|\hat{y}'_a\rangle |\hat{x}'_b\rangle &= (\sin \alpha |\alpha_x\rangle + \cos \alpha |\alpha_y\rangle)(\cos \beta |\beta_x\rangle - \sin \beta |\beta_y\rangle)\end{aligned}$$

もつれた光子対に対しては

$$\begin{aligned}& \frac{1}{\sqrt{2}}(|\hat{x}'_a\rangle |\hat{y}'_b\rangle + |\hat{y}'_a\rangle |\hat{x}'_b\rangle) \\&= \frac{1}{\sqrt{2}}\{(\cos \alpha \sin \beta + \sin \alpha \cos \beta)(|\alpha_x\rangle |\beta_x\rangle - |\alpha_y\rangle |\beta_y\rangle) \\& \quad + (\cos \alpha \cos \beta - \sin \alpha \sin \beta)(|\alpha_x\rangle |\beta_y\rangle - |\alpha_y\rangle |\beta_x\rangle)\}\end{aligned}$$

$$= \frac{1}{\sqrt{2}} \{ \sin(\alpha + \beta)(|\alpha_x\rangle|\beta_x\rangle - |\alpha_y\rangle|\beta_y\rangle) + \cos(\alpha + \beta)(|\alpha_x\rangle|\beta_y\rangle - |\alpha_y\rangle|\beta_x\rangle) \}$$

以上より

$$\begin{aligned} P(\alpha, \beta) &= \frac{1}{2} \sin^2(\alpha + \beta) \\ P(\alpha_{\perp}, \beta_{\perp}) &= \frac{1}{2} \sin^2(\alpha + \beta) \\ P(\alpha, \beta_{\perp}) &= \frac{1}{2} \cos^2(\alpha + \beta) \\ P(\alpha_{\perp}, \beta) &= \frac{1}{2} \cos^2(\alpha + \beta) \end{aligned}$$

C.5 0.5 点

答え：

$$S = |\cos 2(\alpha - \beta) - \cos 2(\alpha - \beta')| + |\cos 2(\alpha' - \beta) + \cos 2(\alpha' - \beta')|$$

$$S = 2\sqrt{2}.$$

$S > 2$ は古典理論とは相容れない。

解答例：

まず気づくのは、

$$E(\alpha, \beta) = \frac{P(\alpha, \beta) + P(\alpha_{\perp}, \beta_{\perp}) - P(\alpha, \beta_{\perp}) - P(\alpha_{\perp}, \beta)}{P(\alpha, \beta) + P(\alpha_{\perp}, \beta_{\perp}) + P(\alpha, \beta_{\perp}) + P(\alpha_{\perp}, \beta)}$$

である。 P の表式を用いれば

$$\begin{aligned} E(\alpha, \beta) &= \sin^2(\alpha + \beta) - \cos^2(\alpha + \beta) \\ &= (\sin \alpha \cos \beta + \cos \alpha \sin \beta)^2 - (\cos \alpha \cos \beta - \sin \alpha \sin \beta)^2 \\ &= -(\cos^2 \alpha - \sin^2 \alpha)(\cos^2 \beta - \sin^2 \beta) + 4 \sin \alpha \sin \beta \cos \alpha \cos \beta \\ &= \sin(2\alpha) \sin(2\beta) - \cos(2\alpha) \cos(2\beta) \\ &= -\cos 2(\alpha - \beta) \end{aligned}$$

故に

$$S = |\cos 2(\alpha - \beta) - \cos 2(\alpha - \beta')| + |\cos 2(\alpha' - \beta) + \cos 2(\alpha' - \beta')|$$

$$\alpha = \frac{\pi}{4}, \quad \alpha' = 0, \quad \beta = -\frac{\pi}{8}, \quad \beta' = \frac{\pi}{8}$$

に対して S は

$$S = \left| -\frac{1}{\sqrt{2}} - \frac{1}{\sqrt{2}} \right| + \left| \frac{1}{\sqrt{2}} + \frac{1}{\sqrt{2}} \right| = 2\sqrt{2} > 2$$

となる。以上から古典理論とは相容れない。